

第20号

SSH
Super Science High school

緑高 SSH

令和6年度
探究まとめ号

2025年3月13日



アカデミックキャラバン(11月7日)

今年も鎌倉芸術館で開催しました。今年度は、総合研究大学院大学教授の蟻川謙太郎先生にお話しいただきました。先生の専門は神経行動学ということで、修士1年の冬にアゲハがお尻で光を感じることを発見、この研究で理学博士の学位を授与されました。その後昆虫の色覚に関する研究に注力して国際的で数々の業績を挙げました。また、殺虫剤ではなく、光による害虫防除の技術開発にも貢献するなど、神経行動学・動物生理学の研究とその発展に多大な貢献をされました。紫外線を見ることができるアゲハ蝶は、この世界をどんな風にみているのか、数値を示しながらお話くださいました。講演の後には、先生への質疑応答の時間を取り、生徒達は活発に質問していました。探究活動に大きな刺激を受けているといいですね。

2年生「緑の探究Ⅱ」まとめ

水をテーマに探究のサイクルを学んだ昨年から大きく飛躍し、今年度は自分の興味・関心のあるテーマについて、個人またはチームで研究しました。先行研究調査から設定した仮説の検証のため、様々な調査・実験が行われました。夏休みから計画的に予備実験を行ったグループもありました。1月末に全チームが研究内容を1枚のポスターを作成し、分野ごとに発表会を行いました。その後の各分野の代表による発表会では、多くの質疑応答があり、活気あふれる場になりました。

「緑の探究Ⅱ」での学びを「緑の探究Ⅲ」につなげ、更に充実した研究をしてほしいと思います！



3年生「緑の探究Ⅲ」まとめ

「緑の探究Ⅲ」では、最後の課題を設定して調査・実験し、成果をポスターで発表しました。

履修後のアンケート調査によると、「緑の探究に興味深く意欲的に取り組んでいる」に肯定的な回答をした生徒は94.3%でした（回答数243）。また、「緑の探究で最も伸ばしたい力」では、「課題発見・設定能力」と回答する生徒が学年を経るごとに増加しました（1年生22.1%→3年生39.4%）。その意識の表れなのか、検証に適した課題を設定できているグループが3年間で徐々に増えたことが印象的でした。ここでの成長は、高校卒業後も役に立つと確信します。



1年生「緑の探究Ⅰ」まとめ

今年度も「水」をテーマとし、株式会社オオスミ様、神奈川県衛生研究所様、日本大学生物資源科学部様と連携しながら探究をしてきました。今年度は「探究とは？」+「探究をやってみる」ということで、文献調査や仮説の設定、実験、ポスター発表という探究のサイクルをグループで回しました。初めての探究ということで、たくさん失敗もしましたが、連携先の企業の方々や理系の先生方などの力を借りながら、懸命に取り組みました。来年度以降のさらなる発展を期待しています！



1
Super Science High school

発行：神奈川県立横浜緑ヶ丘高校 研究グループ

YOKOHAMA
MID
RIGAOKA